

## 編集後記

アメリカの田園都市ラドバーンでの都市整備を紹介する黒田所員の論稿は、社会資本整備のあり方を考える上で示唆に富むものです。日本では、バブル期の「地上げ」と「土地転がし」によって、住民のコミュニティが著しく破壊された事例にも見られるように、利益優先の土地利用がもたらした弊害は枚挙に暇がありません。いうまでもなく、都市計画は「公共性」をめぐる問題の根幹を成すものであり、生活空間は人間にとって最も基本的な公共空間といえるでしょう。しかし、今日のわが国においては、「公共」の概念がしばしば濫用され、「公共の利益」を錦の御旗に掲げる状況下で、実質的な公共性の衰退と形骸化が進行しているように小生には思われます。何が真の意味での「公共性」なのか、われわれは住環境の問題を通じていま一度考え直してみる必要があるのではないのでしょうか。

( Y . S . )

---

神奈川県川崎市多摩区東三田 2 丁目 1 番 1 号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

(発行者) 柴田弘捷

製作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前 2-10-2 電話 (03)3404-2561

---